

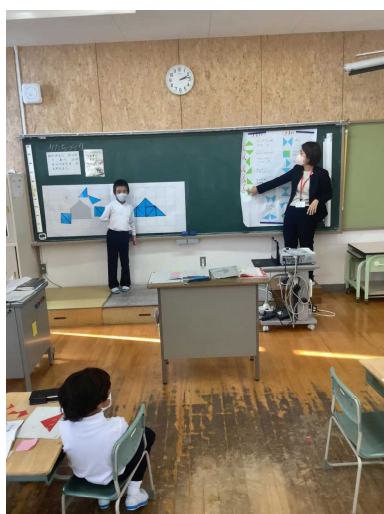


絆（きずな）

目指す児童像

- やさしい子
- よく考える子
- ふるさと思いの子

児童と教職員が成長しているという手応えを感じる ～11/11後期指導主事訪問より～



1年算数の授業の様子

11月11日(金)に南越地方教育委員会連絡協議会より指導主事、町教育支援センター長にお出でいただき、本校の教育活動について、ご指導をいただきました。当日は7～11月にかけての本校の教育活動についての説明の後、2・3年生の体育、かがやき学級の算数、6年の算数、あすなる学級の国語、1年算数の授業の授業を見ていただきました。

今年度は学校の教育目標として「ふるさとを愛し、主体的に行動できる児童の育成」、研修テーマとして「自分の考えを分かりやすく話せる子を育成する指導の工夫」を掲げて、日々の授業、校内研修を行ってきました。指導主事訪問はその成果を検証する場でもあります。

放課後に行った授業研究会では1年算数の授業（全員で参観しました）について、児童の姿をもとによかったところ、課題があったところを話し合いました。手にもものを持たずにお話を聞くなどの学習規律の指導、児童が発した言葉をそのまま生かしたり、ほめたりして学習意欲を高める工夫など教職員から多くのよい気づきが出ていました。

指導主事、町教育センター長からは次のような講評をいただきました。

○しっかりした学習規律の中で児童がのびのびと素直に学習している。

○教師が個に応じた手立てを行い、全員を学習に参加させようとしている。

○児童をのせる言葉、働きかけが随所に見られた。

○体育の授業で、児童の引きつける技術が巧みであった。

○教師の肯定的な評価、ほめ言葉が児童の自己有用感を高めていた

○子どもによる形の命名や、配慮が必要な児童への対応など一人一人を大切にされた授業が展開されていた。

○子どもどうしのよい関係が築かれている。

○ふるさとを大切に育てるふるさと学習が展開されている。

ご指導をいただいたことを今後の教育活動に反映させていきます。



授業研究会の様子